

2023 年 1 月 24 日

2022 年度聖路加国際大学大学院看護学研究科

課題研究

出産満足度の測定尺度と関連する要因、満足度向上

の支援の効果：スコーピングレビュー

Measures of Childbirth Satisfaction and Associated
Factors and Effectiveness of Care for Improving
Childbirth Satisfaction: a scoping review.

21MW002

氏名 片山百萌

要旨

【目的】

出産の満足度と育児生活への適応には深い関係があるとされる。本研究は、出産満足度の向上を目指す研究の主要な概念、出産満足度に関する要素、出産満足度の測定尺度、出産満足度向上のための介入と有効性をスコーピングレビューの手法を用いて明らかにすることで、多くの女性の出産満足度の向上を目指すための支援の方向性について示唆を得ることを目的とした。

【方法】

本研究の方法は幅広い文献の概観により、実施された研究を網羅的に調査し、研究が行われていない範囲を明らかにすることを目的としているスコーピングレビューである。文献検索は電子データベースである、医学中央雑誌 Web 版、MEDLINE (via PubMed) を用い、検索対象期間はデータベース登録開始から 2022 年 7 月末までとした。検索用語は、出産満足度、Birth satisfaction 用い、各データベースのシソーラス用語を用いて検索した。文献の選択基準は出産満足度について記述があるものとし、2 人が独立して文献の適格性を評価した。抽出した文献データを「著者 (発行年)」「研究デザイン」「場所」「目的」に沿って文献データ表に整理し、「主要な概念」「満足度に関連する要素」「出産満足度向上のための介入」「介入の有効性」「測定尺度」「測定の時期」の項目に沿ってデータを集計した。

【結果】

検索の結果、180 件の文献が特定された。スクリーニングを実施し、71 件の文献が抽出された。そのうち日本を対象とした文献は 22 件であった。また、最も多かった研究方法は質問紙調査であり 41 件であった。主要な概念には「出産体験に対する肯定的な認知」があり、出産満足度には「人種」「宗教」「出産場所」「出産方法」「正常からの逸脱」「母体と新生児の状況」「COVID-19」の要素があった。有効的な介入方法には「出産準備プログラム」「バースプラン」「インフォームドコンセント・意思決定支援」「音楽」「ダンス」「コミュニケーション」「イメージ法」「リフレクソロジー」「ヒプノバーシング」「Holistic Birth Support Strategies」「Early-Labor Lounge」「近親者のドゥーラ」「早期母子接触」「バースレビュー」など妊娠期から産褥期に実施されるものがあつた。出産満足度を測定する用具には 15 種類の既存の測定尺度が使用され、測定時期は介入研究では全て退院日までに測定されていた。

【結論】

出産満足度の向上を目指す支援には、満足度低下のリスク因子について認識した上で、満足度の向上に繋がる介入を行うことが重要であることが示唆された。妊娠期では出産に備えるケア、分娩期では産痛緩和ケア、産褥期では早期母子接触とバースレビューが有効的なケアだと考えられる。今回の研究では出産満足度に関連する要因やケアの介入による出産満足度への有効性について知ることができた。介入研究については対象者が少ないため、臨床に取れ入れるかどうか検討するためにはさらなる研究が必要である。